

EurekaIV

六年制通信 No. 17 平成 28 年 9 月 9 日 (金) 号

比喩

あと 5, 6 年もすれば、学校教育の中身も授業の仕方も、そして評価の基準も入試の内容も、大きく変わると言われています。やがてセンター試験が廃止され、新しく学力評価テスト（まだ正式名称は決まってないようです）が導入されることは、君たちも耳にしたことがあるでしょう。50 万人以上もいる受験生の、スピーキング能力をどう測るか、マークシートをやめて記述試験にした場合、どの機関が採点をし、それにはどれくらいの時間がかかるのか。12 月には実施しなければ採点は無理だ、いやそれでは受験生が十分な受験準備はできないだろう、などなど問題は山積のようです。

英語については、英検などの外部試験を活用する案が出ています。もうすでに、例えば英検の準 1 級を取得していれば「みなし満点」とし、受験科目から英語を免除するといった方式を採用している大学もあります。私立大学は反応が早いですからね。でもそうすると、高校では英検用の単語帳なんかを使うようになるのかなあ。皆さんはどう思いますか。

国語の授業には新たに「論理学」が設定されるとも言われています。これまた、どうするんでしょうね。三段論法あたりから始めるのでしょうか。世界大百科事典によると論理学とは、「論理についての科学。われわれは論理をごくおおまかに、人間の思考の筋道、あるいは思考の成果としての知識の構造と特徴づけることができる。われわれがものを〈考える〉とき、われわれは思考に先立ち存立する世界を対象とし、そこにはかくかくの事態がなりたつという判断をください。次にわれわれは、この事実判断を基礎（前提）にして、ある事柄を推論する。一般に思考と称せられる人間の行為は、まさにこの推論の過程において現れるのである」と解説してありますが、皆さん、いかがですか、わくわくしますか。この定義は何も大したことは言っていないのですが、難しく聞こえますね。

論理学といえば昔からアリストテレスですから、古代ギリシアの哲学に踏み込んだ授業をするのでしょうかね。でもこれ、国語の授業ですから国語の先生が教えるわけですね。大変だなあ。

論理学の授業も、やりようによっては大変面白いと思いますが、レトリック（修辞学）の基礎なども扱ってほしいと思います。そういうの、開講するかどうかを学校の自由ならいいのにね。学校の先生は人と話すのが仕事ですから、色々と例え話をしたり、比喩を使ったりします。一度の受験に失敗して嘆く生徒に対し、ここぞという場面で三振して落ち込む打者にたとえて、それでも次の打席のために素振りをしなきゃ

いけないのだ、と言って励ましたりします。何とか生徒の気持ちを鼓舞しようと工夫します。なかなか伝わらないこともあるけどね。

学生時代に修辞学（レトリック）の講義を聴いた、ような気がします。古代ギリシアのエピセツトの話や、比喩にも色々あることを初めて知ったのもその時だった、ような気がします。なんでもギリシア神話、というか『イーリアス』などホメロスの作品では、ヘラ（ゼウスの妻）のことを必ず「白い腕^{かいな}のヘラ」というのだそうで。アキ

レウスは「都を攻めるアキレウス」、女神アテネはいつも「鼻^{ふくろう}の目をしたアテネ」と呼ばれるわけです。知恵の女神アテネと鼻は切っても切れない関係なんですね、昔から。ですから、鼻は知恵の象徴として描かれたりしています。こういうのをエピセツトとって、36種類あるのだそうです。いわば固定化した形容詞ですね。日本の枕詞に当たるのでしょうか。敷島の…、ときたら大和の国と。

ここから、例えば「白い腕のヘラが現れた」とは言わず「白い腕が現れた」と言うことでヘラの出現を表すと、これは比喩の中でも提喩^{ていゆ}（シネドキ synecdoche）と呼ばれる表現になります。一部で全体を表す、あるいは全体で一部を表す、これが提喩です。

刀^{かたな}のことを刃^{やいば}、船^{ふね}のことを帆^ほ、水平線を白い帆が走っていく、などと言いますね。

また、桜を見に行くことを花見といたり（チューリップも花ですが、「花見」と言う言葉でチューリップを連想する人はいないでしょうね）、美人のことを〇〇小町と言ったり。ただし、提喩は部分と全体の関係が物理的であることが肝要なんだそうです。う〜む、難しいね。

比喩には他にも種類があって、直喩^{ちよくゆ}、隠喩^{いんゆ}、換喩^{かんゆ}があります。直喩（シミレ simile）とは、「稲妻のごとき速さで…」といった「～のような」という、私たちがよく使う表現です。「あの人は鬼のような人だ」とかね。しかしこれも「あの人は鬼だ」というと隠喩（メタファー metaphor）になります。パスカルの「人間は考える葦である」もそうです。換喩（メトニミー metonymy）というのがよくわからなくて、「例のボトルはもう飲んだよ」でワインを飲んだことを表すとか、「永田町も大変だね」で国会のことを言ったりとか、そういうもの、らしい。しかし「レンズが記憶する決定的瞬間」のレンズはカメラの一部だから提喩だろうが、これがカメラマンのことなら換喩なのかなあ。みなさんも一度調べてみてはいかがか。

では、問題です。次の表現は直喩、隠喩、換喩、提喩のどれに当たるのでしょうか。

- 1) あら、寒いと思ったら空から白いものが降ってきたわ。
- 2) あいつ、苦虫を噛み潰したような顔しちゃってさ。
- 3) 昨日は漱石を読んでたんだ。
- 4) 君は僕の太陽だ。

答えは担任の先生に聞いてね。